

冬季と病氣

醫學士 前田 實氏 談

▲證書の提示 種痘證は大切に保存して置いて、市町村吏員、衛生官吏、警察官吏などに見せろと言はれた時には何時でも見せなければならぬ、若し紛失をしたときには市町村長から證明を貰つて置くが宜しい。

▲舊法と新法 改正前の種痘規則によつて種痘を受けたものは七歳までに種痘を受けたといふことが確に證明されれば第一期を終つたものと見做されます、それで十歳になつた時に第二期の種痘を受ければ宜しい、夫から八歳後に受けて居るものは第二期を終つたものと見做されますから改正規則によつて改めて受けるには及びません。

▲お嫁さんとお嫁さん 來年一月一日以後にお嫁さんやお嫁さんを迎へたときに其のお嫁さんやお嫁さんが未丁年者であれば親權者は矢張り種痘の済未済を調べて相當の處理をする義務があります以上何の項でも違背すると罰金です。

▲夏は胃腸の病氣に罹り易く冬は寒胃、インフルエンザに罹り易いのが御定りになつて居ます、日本では十二月の末から一月二月が時候の一番悪い時ですから一般に用心をしなければ兎角病氣にとつかれ易いものです。

▲素人の方は寒胃もインフルエンザも混同にしてナニ一寸風邪をひきまして位で手當を怠るものですから失敗ことも多いやうです寒胃といふ方は冷い風だとか温度の激變と外部の機械的刺戟の爲め身體に熱が出るのですがインフルエンザは之と全く別で微菌の爲めに病氣が發生するのです。

▲ですからインフルエンザの方は傳染病で其微菌が段々他人に傳播します一昨年と覺えますが我國では大變インフルエンザが流行しまして一家残らず床に就く御隣にも近所にも病人が出來るといふ風に恐しい勢で蔓延しました彼の時は日本ばかり

でなく世界中にインフルエンザが流行したのは餘程珍しいことです。

▲インフルエンザの病症といへば發熱、頭痛、吐瀉、などで發熱に惡寒を伴ふのが普通です。そして此病氣を治療し切ないで愚圖々々して居ると兎角餘病を引越し易いもので此餘病といふのが頗る恐しいのです。餘病は大抵三通で腸を侵すのと腦神經を侵すのと呼吸器を侵すのがこれです。

▲呼吸器を侵すと氣管支、小氣管、支肺といふ順序に病症が進んで終には反逆しのつかぬ病氣になります。寒胃の方は矢張發熱とか頭痛とかを起すのです。これは微菌でありませぬ。然し寒胃に罹つて居るとインフルエンザの微菌を呼易い譬へてみれば戸締の無い家のやうなものでともすれば盜賊の恐があります。されば寒胃だからとて中々輕々しく思つてはなりません。これ等の病氣に對する養生方法及び子供方の冬季に於ける取扱法を次回に申しましやう。

▲寒胃を豫防しやうと思へば空氣の乾燥して居る

日などは室内に水蒸氣を含ますやうに心懸れば宜しい。之は水蒸氣で鼻腔又は咽喉内の粘膜を潤してカルタに覆るのを防ぐのであります。然し斯様な豫防策は御隠室や赤坊で出来ることで、働盛りの人々には到底實行出来ない話です。それよりかも矢張り冷水摩擦で平生から鍛へた方が宜しい。

▲所が冷水摩擦には大分誤解があるやうです。何んでも冷たい思をすれば宜いと云ふ考から北風の吹き通す場所を殊更撰む人がありますが之は大きな間違です。冷水摩擦は皮膚の抵抗力を丈夫にするのと摩擦そのものの効能と二つあります。ですから婦人の方や身體の弱い方は温湯で摩擦しても確に効めがある譯で無暗に自分の身體をも考へずに亂暴なことを爲るのは却つて害があります。それに又冷水摩擦を初めたらば中止せず、に續けることが肝心です。段々皮膚が丈夫になつて居るのに途中で二三日も休むと抵抗力が其間に少し衰へる所が今度再びやり始める際には前の積りでやり出すものだから之が爲め失敗つて寒胃に罹ることがあります。

▲無暗矢鱈に用心して許り居るとビードロのやう

な身體になつて終まうから何んでも積極的療法と云ふことをやらねばなりません少し寒氣がすると思つた時は全身摩擦をやつて體温を呼び起し病氣の發生に逆襲をやると一種の豫防法にもなりますさればとて病氣に罹てから無理をするのは至極危険ですから誤解のないやうに願ひたいです。

▲冬季は浴後寒氣に罹ることが多いですが俗に謂ふ湯ざめを注意せねばなりません浴後は三十分以内に寝就けば決してこれに罹る憂は無い筈ですが兎角管らぬ話などに時を費して病氣を製造するものでですから充分の注意が必要で次回の子供の取扱を御話致します。

▲獅子は産んだ子を路へ墮落して助かつた者のみを育て上げると云ふ話もある人間だつて餘り小さい頃から手につけて過ぎると爲めにならぬなど理窟を述べ立てる人もありますが之は感心の出來ぬ議論です子供が學校に行き出す頃までは充分大事に保護して學校へ通ひ出すのを機會として少々は無理をさしてみるのも身體を鍛ふ譯にならうと思ひます。

▲いくら寒いからとて炬燵は嚴禁せねばなりません炭火からは絶えず一酸化炭素と云つて有害な瓦斯が出て居ますから至極不衛生なものです赤坊を寐かす前に湯タンポを夜具の中に入れ豫め温めて置いて寝かせば充分だと思ひます赤坊の寝姿は假令赤坊が夜具から飛出して風邪を引かぬ丈けに着せて置かねばならないのとして醫學上では春夏秋冬を通じて赤坊には大人よりも拾一枚丈け多く着せるのが原則と言つて宜しい。

▲赤坊は風の強い日とか夜分とかには成可く外へ連れて出ないやうにしなければなりません然し學校通ひを初めた子供などは最早や一通身體も定つて來たのですから随分薄着もさして見ねばならぬ又昔から子供は風の子と言ふやうに寒風にも吹かれさして見なければ却つて弱々しい人間が出來上ることになります。

▲以上申したやうな手心が冬季の子供取扱上に必要でありますが兎角世間では偏り勝ちで嚴重主義の人は赤坊まで寒い目をさして病氣に罹らせ寛容主義の人は惡戯盛りの子供をかばひ過ぎて蒲柳

の質にしてしましますから世の親たる人は此點に
充分の御注意を願ひたいものです。

羽子板の話

湘 南 生

羽子及び羽子板が玩具として價值あるものであることは、屢先識者に因つて唱導せられた所で、今更之を喋々する必要はないが、併し是れは其押し繪の作り方で却つて折角の教育的價值を害される恐れがある、然るに同じ用い方で又同様な體育價值を得らる玩具が近頃ポツ／＼賣り出されて來た。それはトンズと云ふもので羽子は支那人の用ふる羽子の通りで我國の在來のものと大體同様で唯羽根の付け方が玉に押したる袖に一所に縛り付けるのではなくて、是は玉の上部に圓く植えるのである。それから、之を突くものは恰もテニスのラケットに能く似たもので唯作り方が粗末なものと材料が粗末のところが異なる丈である。且其重さは遙に通常

の羽子板より輕いから小さい子供にも使へそうで幼稚園などには至極危険もなく價も廉くて宜しい機である。吾人は我國在來の押繪羽子板を取えて排斥もしない。若し其押繪其ものが教育的になるならば、決して之を忘むものではないが、併し同時に此新代用品「トンズ」をも普及したい儘に思ふ價が僅かに拾五錢で羽子板と同様に遊べる、否却つて普通の羽子板よりは使用し易して面白い様である。併し又一方から云はせると普通の羽子板も捨て難いものであると云ふ人もあらう。けれどもそれは多くは大人の玩具、殊に藝妓などの縁喜的玩具としての話で教育眼から見れば強いて保存したいと云ふものではない之と同等な教育的價值を持つたもので經濟的な代用品があるとすればそれを採つても別段差支ない譯である。普通の羽子板が別段教育的のものでないと言ふことは次の話を見ても知れることである。此話は昨年の暮に或其道の黒人が語したものだとして通信社が報じ越したもので羽子板の過去と現在とが能く判る序でだから左に掲げて讀者の參考に供する次第である。